

2017 年 1 月 10 日

各 位

JX 石油開発株式会社

米国の原油増産プロジェクトにおける世界最大規模 CO2 回収プラントの運転開始について

当社（社長：三宅俊作）は米国の大手電力会社 NRG Energy, Inc.（以下「NRG 社」という。）と合併で、2014 年 7 月より米国テキサス州において、老朽化油田からの飛躍的な増産と大気中への CO2 の放出削減を同時に実現するプロジェクトを進めております。

このたび、当社と NRG 社が合併事業会社を通じて米国三菱重工業を含むコンソーシアムに発注した、プロジェクトの主要設備である世界最大規模の CO2 回収プラント（*1）が予定どおり完成し、2016 年 12 月 29 日に運転を開始いたしましたのでお知らせいたします。

このプロジェクトでは、NRG 社が米国テキサス州に保有する石炭火力発電所（*2）から排出される CO2 を回収し、当社が同社との 50 : 50 の合併事業会社を通じて 25% の権益を保有する油田（*3）に圧入することにより、同油田の生産量を、現在の日量 300 バレルから日量 12,000 バレル（プロジェクト期間平均での見込み）に増加させるとともに、大気中に放出される CO2 を、年間約 160 万トン削減させることが可能となります。

当社がこのプロジェクトで用いている CO2-EOR（Enhanced Oil Recovery : 石油増進回収）は、地球温暖化の原因となる CO2 を地中に圧入・貯留することで、油田の生産性を高める技術であり、石炭火力発電所から排出されるガスを活用して商業化に導くという点で、特に先進的なものであります。

当社は、CO2-EOR を重点技術の一つと位置付けて取り組んでおりますが、今後も新しい発想のもとで、地球環境と調和した事業展開を図ってまいります。

以 上

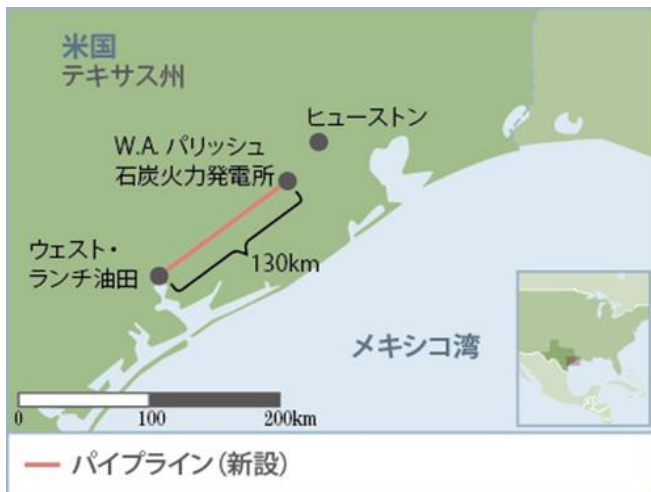
（*1）このプロジェクトの CO2 回収プラントは、三菱重工業株式会社の米国事業会社である米国三菱重工業と米国の大手建設会社 TIC 社（The Industrial Company）によるコンソーシアムが建設いたしました。CO2 回収能力は日量 4,776 トンであり、燃焼排ガスから CO2 を回収するプラントとしては世界最大となります。

（*2）テキサス州ヒューストンの南西部に所在する W. A. パリッシュ石炭火力発電所です。

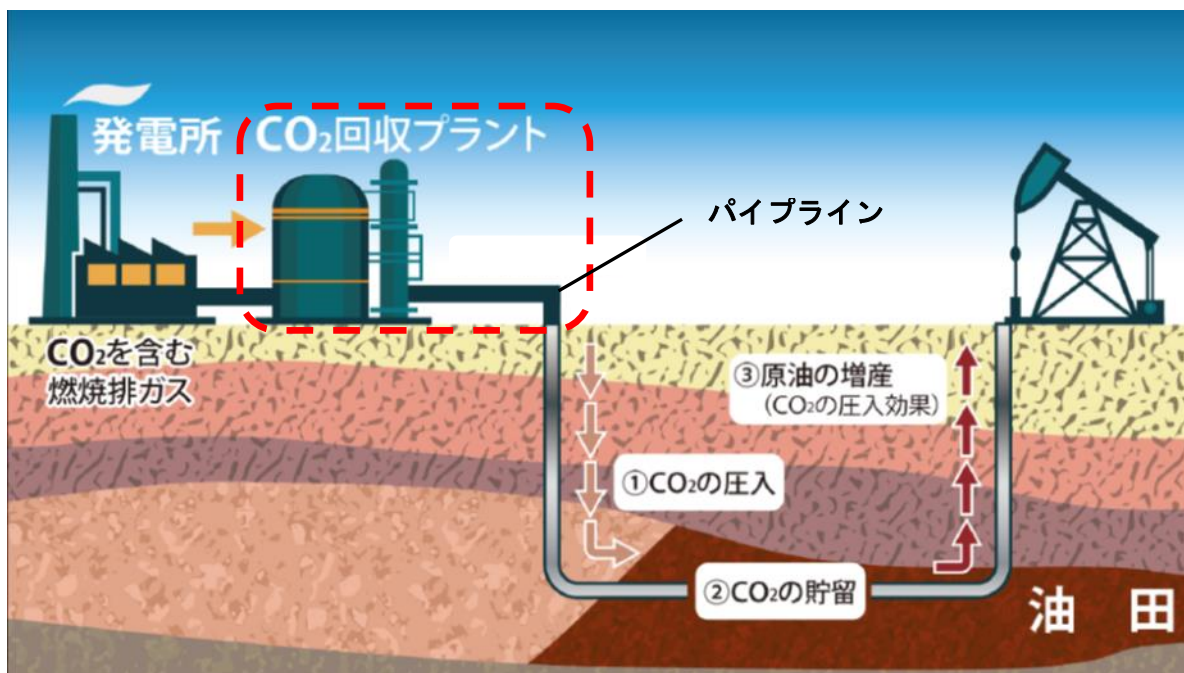
（*3）W. A. パリッシュ石炭火力発電所の南西約 130km に所在するウェスト・ランチ油田です。発電所から油田までは、新設したパイプラインで CO2 を輸送しています。

【添付資料】

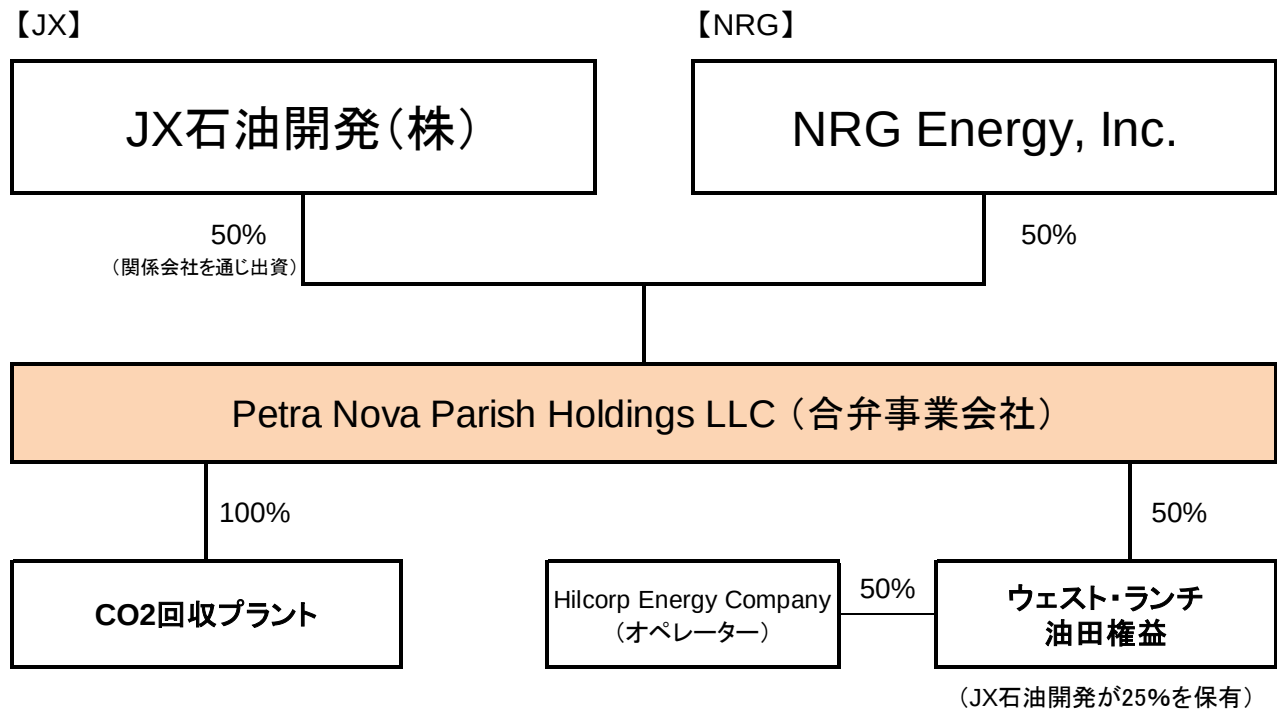
1. 地図



2. プロジェクト概念図（赤点線内が今回運転を開始したプラント）



3. プロジェクトのスキーム



4. NRG Energy, Inc. の概要

- (1) 業態 米国大手発電・電力卸・小売業者
- (2) 設立 1989 年
- (3) 本社 米国ニュージャージー州およびテキサス州
- (4) 従業員数 約 10,000 人
- (5) その他 ニューヨーク証券取引所上場

5. ウェスト・ランチ油田の概要

- (1) 所在地 テキサス州ジャクソン郡
- (2) 発見 1938 年
- (3) 累計生産量 約 3 億 9,000 万バレル
- (4) パートナー構成 Hilcorp Energy Company : 50% (オペレーター)
Petra Nova Parish Holdings LLC (合併事業会社) : 50%

以 上